



日置市地域福祉活動計画 策定委員会作業部会に参画

社会福祉学科 茶屋道ゼミ



社会福祉学科の茶屋道ゼミ 3 年生 8 名が 10 月 1 日と 10 月 22 日、地域フィールド演習の一環として、日置市社会福祉協議会にてフィールドワークを行いました。

10 月 1 日は第 3 期日置市地域福祉活動計画策定委員会作業部会に参画しました。地域福祉活動計画とは、地域福祉課題を明確にして解決を目指して、地域住民や社会福祉に関する活動を行う方、福祉サービスを経営する方が相互協力して策定するもので、地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画です。現在策定中の計画案に対して、ゼミ生から、①社会福祉協議会のイメージについて、②第 3 期日置市地域福祉活動計画に対する意見、③地域福祉活動計画の活用方法について、プレゼンテーションを行いました。また、プレゼン

テーション後は作業部会の構成員である日置市社会福祉協議会の事務局長をはじめ、職員の方々と意見交換を行いました。

10 月 22 日は、第 3 期日置市地域福祉活動計画策定委員会に参加。作業

部会でのディスカッションが委員会に反映されていく様子をうかがうことができました。今回のフィールドワークを通じて、①ゼミ生には日置市在住の者もあり、地域の特徴を事前に調べることで新たな発見（地域の強み）があったこと、②個々の感じている地域課題を全体に反映させようとする社協職員のあたたかさ、しなやかさ（雰囲気の良い）、③今回のフィールドワークでは「福祉」×「地域づくり」・「計画づくり」の視点を養うことができました。

プレゼンテーションを含め、私たちの考えを伝える貴重な体験をさせていただいたことで、刺激になり、自信もつきました。日置市だけでなく、わたしたちのかかわる地域についてもっと詳しく知りたいと改めて感じました。

〔文 社会福祉学科茶屋道ゼミ 3 年〕

田代・岡元・町田・横内
花田・高橋・松尾・湯坐



社会科教育のフィールドワークを実施

児童学科 協ゼミ

児童学科の協ゼミ3年生12名が、小学校の社会科教育の研究に役立てようと、垂水市でフィールドワークを8月に行いました。

初めに鹿児島県の特産品であるカンパチを養殖している、垂水市漁業協同組合を訪問。いけすの設置場所まで船で案内していただき、安心・安全で美味しさを追求している様子を調査し、特徴的な施設や設備等の説明を受けました。その後、垂水市立新城小学校を訪

問し、小規模校の現状を踏まえ、ICTの効果的な活用などの学校経営の現状を確認しました。

参加した児童学科3年の嶋田和香子さんは「地域のことを知るフィールドワークは貴重な経験になっている。カンパチの餌やりでは迫力に衝撃を受け、錦江湾を優雅に泳ぐイルカも見ることができた。様々な経験を通して、将来は鹿児島県のような特性、素晴らしさを伝えられる小学校の先生になりたい」と話しています。



ふわふわのコットンを初めて収穫！

綿花（コットン）栽培をとおして、SDGsやエシカル消費などについて考える今年度発足した「IUKコットンプロジェクト」。6月に植えた棉の苗が順調に育ち、3色（白・緑・茶）の和綿と洋綿が次々と開花し、コットンボール（綿花）をつけました。

後期の授業が始まった9月末に、プロジェクトメンバーが初めての収穫を体験しました。ほとんどの学生がコットンボールを見るのも初めてで、本プロジェクトを主催する松本俊哉准教授の和綿と洋綿の違いや、花や

葉っぱの違いなどの解説を聞きながら、コットンボールのふわふわの感触を楽しんでいました。

また、10月9日には世界文化遺産構成資産でもある旧鹿児島紡績所技師館（異人館）であった、綿花を使った糸作りと機織りの体験イベントに参加しました。日本の近代紡績発祥の場所で綿花栽培や綿織物などについて学び、本学で今後実施する綿花を用いたイベントの企画・運営に役立てる予定です。

